

令和5年度 日鋼記念看護学校 学校関係者委員会 報告書

1. 開催日時 令和5年12月6日(水) 13:30～15:00
2. 開催場所 日鋼記念看護学校 研究室
3. 出席者総数 8名

[学校関係者評価委員参加者]

- 臨地実習施設関係者 齊藤 亜希子 (社会医療法人母恋 日鋼記念病院 副院長 看護部長)
地元企業関係者 三谷 洋一 (社会福祉法人母恋 地域介護相談センターいきがい)
教育に関する有識者 安居 光國 (国立大学 室蘭工業大学 准教授)
教育に関する有識者 田高 紀子 (社会医療法人慈恵会 聖ヶ丘病院 看護課長)
教育に関する有識者 坂本 実枝子

[学校側参加者]

- 伊藤 眞理 (日鋼記念看護学校 学校長)
岩田 玲花 (日鋼記念看護学校 教務主任)
舟山 尚徳 (日鋼記念看護学校 事務長)

会議次第

1. 開会・資料確認
2. 学校長挨拶
3. 学校概要・計画・特色ある教育活動の説明
4. 令和5年度自己評価結果の説明・審議
5. 質疑応答

令和5年度日鋼記念看護学校 学校関係者評価委員会 評価結果ならびに改善策

(5: そう思う 4: ややそう思う 3: あまりそう思わない 2: そう思わない 1: わからない)

I 教育理念・教育目的

	下位項目	点検 (評価内容)	令和4年度 自己評価	令和5年度 学校関係者 評価 (平均)
1	法的整合性と独自性	I-1 教育理念・教育目的は本学校の教育上の特徴を示しており、かつ法との整合性がある	4.3	4.7
2	教育理念・目的の意識と周知	I-2 教育理念・教育目的は学生にとって学習の指針になるように具体的に明示され、実際に指針となっている	4	4.4
3	看護専門職についての考え方	I-3 教育理念・教育目的は看護専門職についての考え方を明示している	4.4	4.7
4	看護教育についての考え方	I-4 養成する看護師の質を保証するために、どのような教育内容・教育方法・教育環境を整えようとしているかが述べられている	4.1	4.4
5	学習・教育観と学生観	I-5 看護・看護教育・学生観について、教員の教育活動の指針となるように明示され実際の指針となっている	3.7	3.9
6	教育理念・目的の評価	I-6 養成する看護師が卒業時点において、どのような資質を有するか明示し、その資質は社会に対する看護の質を保障するのに妥当である	4.4	4.5
			4.2	4.4

II 教育目標

	下位項目	点検 (評価内容)	令和4年度 自己評価	令和5年度 学校関係者 評価 (平均)
1	教育理念・目的との一貫性	II-1 教育理念・教育目的と教育目標が一貫している	4.5	4.7

2	目標内容の側面と到達レベル	II-2	教育目標は設定した教育内容を網羅し、かつ、卒業時の学生の到達度が示されている	4.5	4.5
3	設定意図とその明確性・実現可能性	II-3	教育目標は設定意図が明確であり、教育活動の指針となっている	4.5	4.7
		II-4	教育目標は実現可能であり、社会の人々や学生が理解できるものである	4.4	4.6
4	教育目標の評価	II-5	看護実践者としての能力を育成する側面と学習者としての成長を促すための側面から教育目標を設定している	4.5	4.6
5	継続教育との関連	II-6	卒業後の継続教育の考え方を示した上で、看護基礎教育として教育目標を設定している	4.3	4.4
				4.5	4.6

Ⅲ教育課程経営

	下位項目	点検（評価内容）		令和4年度 自己評価	令5年度 学校関係者 評価 (平均)
1	教育課程経営者の活動	Ⅲ-1	教職員は、教育課程と授業実践、教育評価との関連性を明確に理解している	4	4.2
		Ⅲ-2	教職員全体は、教育理念・教育目的の達成に向けて一貫した活動を行っている	3.8	4.2
2	教育課程編成の考え方とその具体的な構成	Ⅲ-3	看護学の内容について明確な考え方と根拠をもって教育課程を編成している	4.1	4.3
		Ⅲ-4	学修の到達について明確な考え方と根拠をもって教育課程を編成している	4.1	4.3
		Ⅲ-5	学生の成長について、明確な考え方と根拠をもって教育課程を編成している	3.9	4
3	科目・単元構成	Ⅲ-6	明確な考え方と根拠をもって科目と単元を構成している	4.1	4.3
		Ⅲ-7	科目と単元の構成の考え方は教育理念・目的、教育目標と整合性がある	4.1	4.3
		Ⅲ-8	構成した科目は看護師を養成するのに妥当である	4.3	4.5

		Ⅲ-9	構成した科目は本学校の特徴をあらわしている	4.4	4.5
		Ⅲ-10	単位履修の方法とその制約について教員・学生の双方がわかるように明示している	4.3	4.6
4	教育計画 1) 単位履修の考え方 2) 科目の配列	Ⅲ-11	単位履修の方法は学生の単位履修を支援するものとなっている	4.1	4.3
		Ⅲ-12	単位履修生の考え方を踏まえつつ、看護師になるための学修の質を維持できるように科目の配列をしている	4.1	4.3
5	教育課程評価の体系 1) 単位認定の考え方 2) 評価の体系	Ⅲ-13	単位認定の基準は看護師に必要な学修を認めるものとして妥当である	4.6	4.5
		Ⅲ-14	単位認定の方法は看護師に必要な学修を認めるものとして妥当である	4.6	4.5
		Ⅲ-15	他の高等教育機関と単位互換が可能な体制を整えている	4.6	4.7
		Ⅲ-16	教育課程を評価する体制を整えている	4.4	4.7
		Ⅲ-17	評価結果の活用における倫理規定を明確にしている	4.3	4.7
6	教員の教育・研究活動の充実 1) 教員の専門性を高める体制 2) 教員の自己研鑽を保障するシステム 3) 教員の相互研鑽を保障するシステム	Ⅲ-18	教員が専門性を発揮できるように、教員の担当科目と時間数を配分している	3.8	4.2
		Ⅲ-19	教員が授業準備のための時間を取れる体制を整えている	2.8	3.5
		Ⅲ-20	教員が自ら成長できるよう、自己研鑽システムを整えている	3.4	3.7
		Ⅲ-21	教員が相互に成長できるよう、相互研鑽のシステムを整えている	3.3	3.9
7	学生の看護実践体験の保障 1) 実習施設の利用と開拓 2) 実習目標達成のための実習施設との協力体制 3) 臨地実習指導者と教員の協働 4) 学生からケアを受ける対象者の権利の尊重	Ⅲ-22	臨地実習施設は、本学校の個別の教育理念・教育目的・教育目標を理解している	3.9	4.2
		Ⅲ-23	臨地実習施設は、学生の看護実践の実習を支援する体制を整えている	4	4.4
		Ⅲ-24	臨地実習における学生の学びを保障するために、臨地実習指導者と教員それぞれの役割を明確にしている	3.9	4.2
		Ⅲ-25	臨地実習指導者と教員の協働体制を整えている	4.1	4.5

	Ⅲ-26	学生からケアを受ける対象者の権利を尊重するための考え方を明示している	4.5	4.7
	Ⅲ-27	対象者の権利を尊重する考え方に基づいて学生への指導を計画的に行っている	4.4	4.5
	Ⅲ-28	臨地実習において学生が関係する事故を把握・分析している	4.5	4.5
	Ⅲ-29	学生に対する安全教育、安全対策を計画的に行っている	4.4	4.7
			4.1	4.3

IV教授・学習(講義・演習・実習)・評価過程

	下位項目	点検 (評価内容)	令和4年度 自己評価	令和5年度 学校関係者 評価 (平均)	
1	授業内容と教育課程の一貫性	IV-1	授業内容は、教育課程との一貫性があり、当該学生の特徴に合わせた内容となっている	4.1	4.5
		IV-2	授業内容のまとまりの考え方は、科目目標との整合性を踏まえて明確に述べている	4.1	4.5
2	看護学としての妥当性	IV-3	授業内容のまとまりは、看護学の教育内容として妥当性がある	4.1	4.5
3	授業内容間の関連と発展	IV-4	学生の理解を効果的に促すために、授業内容の重複や整合性・発展性等が明確になっている	4.1	4.3
4	授業の展開過程 1) 授業形態の選択 2) 指導技術の工夫 3) 指導技術の工夫 4) 教材・教具の活用と開発	IV-5	授業内容に応じた授業形態(講義・演習・実験・実習)は選択している	4.4	4.7
		IV-6	授業展開に用いる指導技術についての考え方を授業計画に明示し、実践している	4.1	4.3
		IV-7	授業の展開過程の他に、学生の学習が深化、発展するための方法を意図的に選択し、学習を支援している	4	4.2
		IV-8	学生に対し効果的な教育・指導を行うために、実習指導者や教員間の協力体制を明確にしている	3.8	4

5	目標達成の評価とフィードバック 1) 評価の計画性 2) 評価結果の活用	IV-9	評価計画を立案し、実践している	4	4.4
		IV-10	評価結果に基づいて、実際に授業を改善している	4.2	4.5
		IV-11	学生および教育活動を多面的に評価するために、多様な評価の方法を取り入れている	4.1	4.3
		IV-12	学生による授業評価の機会を保障している	4.4	4.4
		IV-13	教育目標の達成状況を多面的に把握している	3.8	4
		IV-14	学生に単位認定のための評価基準と方法を公表している	4.4	4.6
		IV-15	単位認定の実施において公平性が保たれている	4.2	4.5
6	学習への動機づけと支援 1) シラバスの提示 2) 学習への支援体制	IV-16	シラバスの提示や学習への指導は、養成所全体としての一貫性がある	4.2	4.5
		IV-17	シラバスの提示や学習への指導は、学生の学習への動機付けと支援になっている	4	4.4
				4.1	4.4

V 経営・管理過程

	下位項目	点検 (評価内容)	令和4年度 自己評価	令和5年度 学校関係者 評価 (平均)	
1	設置者の意思・指針	V-1	本学校の設置、教育理念、教育目的、教育課程経営、教育評価、および管理運営に関する管理者の考え方が明示されている	4.7	4.7
		V-2	教職員は、設置者と管理者の意思・指針を理解している	4.2	4.5
2	組織体制 1) 意思決定機関・意思決定システムの明確性 2) 組織の構成と教職員の任用の考え方	V-3	本学校の組織体制は、教育理念・教育目標を達成するために意思決定システムや権限、役割機能が明確である	4.2	4.5
		V-4	組織構成員の意思の反映や決定事項を周知できるような体制を整えている	4.1	4.3
		V-5	教職員の倫理規定が明確になっている	4.7	4.7

	3)教職員の資質向上についての考え方と対策	V-6	教職員の資質の向上についての考え方と対策は、教育理念、教育目的を達成するために整合性を持っている	3.7	4.2
3	財政基盤	V-7	教職員は、本学校がどのような財政基盤によって成り立っているかを理解している	4.2	4.5
		V-8	それぞれの観点から教職員の意見を経営・管理過程に反映できるようになっている	3.9	4.2
4	施設・設備の整備 1)整備の考え方と計画性 2)看護学の発展や医療・看護へのニーズ、学生層の変化に対応する整備 3)学生および教職員のための福利厚生整備	V-9	施設・設備は医療・看護の発展や学生層の変化に合わせて計画的に整備改善を進めている	3.6	3.9
		V-10	学生および教職員にとっての福利厚生の施設整備は、学生生活や教職員の職務が円滑に遂行できるように整備している	3.4	3.9
5	学生生活の支援 1)学修継続への支援体制 2)学習困難への支援体制 3)社会活動への支援体制 4)卒業後の進路選択への支援体制	V-11	危機管理マニュアルを策定し、それに基づき防犯・防災(避難)訓練を行うなど、安全確保の体制を整えている	4.3	4.4
		V-12	健康管理委員会を設置し、学生の健康管理を支援するための年間計画を立案、実施・評価を行っている	4.5	4.5
		V-13	学生が入学後に学修を継続できる支援体制を多角的に、かつ学生が活用しやすいように整え、実際に学生生活の支援になっている	4.2	4.6
6	学校の情報提供 1)教育活動に関する関係者への情報提供 2)広報活動	V-14	教育・学習活動に関する関係者(保護者等)への情報提供を行うことによって、その協力支援を得ている	4	4.5
		V-15	広報活動は、看護師を養成する機関として、社会に十分アピールし、説明責任を果たす内容と方法になっている	4.3	4.2
7	学校の運営計画と将来構想 1)年間の運営計画と評価 2)短期計画・中・長期計画	V-16	本学校の運営においては、設置者の将来構想のもとに運営の中期・短期計画、年間計画を立案し、実施・評価を行っている	4.3	4.6

8	自己点検・自己評価体制 1)自己点検・自己評価の組織 2)資料・データの収集・蓄積 3)資料・データの分析・解釈 4)課題や改善点への取り組み	V-17	自己点検・自己評価の意味と目的を理解し、実際に自己点検・評価を行うための知識と方法を持っている	4.3	4.6
		V-18	自己点検・自己評価体制を整え、運用している	4.4	4.7
		V-19	評価の機能は、カリキュラム運営、授業実践にフィードバックし、教育理念、教育目的、教育目標を維持改善するものとなっている	4.1	4.3
				4.2	4.4

VI 入学

	下位項目	点検 (評価内容)		令和4年度 自己評価	令和5年度 学校関係者 評価 (平均)
1	入学者の選抜の考え方と 教育理念・教育目的との一貫性	VI-1	教育理念・教育目的との一貫性から入学者選抜についての考え方を述べている	3.8	4
2	選抜の公平性	VI-2	入試委員会を組織し、守秘義務を徹底し不正等が起こらないように周知徹底している	4.5	4.7
3	選抜方法の妥当性	VI-3	入学者状況・入学者の推移について分析し、入学者選抜方法の適切性を検討している	3.8	4.4
4	学生募集活動への取り組み	VI-4	受験生の動向や背景を分析した結果を活かし、積極的に募集活動を行っている	4.5	4.7
				4.2	4.5

VII 卒業・就業・進学

	下位項目	点検 (評価内容)		令和4年度 自己評価	令和5年度 学校関係者 評価 (平均)
1	進路選択の状況と教育理念・目的との整合性	VII-1	卒業生の到達状況、就業・進学状況を分析した結果は教育理念・教育目的との整合性がある	4	4.2

		VII-2	卒業生の到達状況を捉える方法を明確にし、それを計画的に行っている	3.5	3.9
2	卒業時の看護実践能力及び卒業後の活動状況の評価	VII-3	教育を改善するために卒業生の就業先との情報交換や調査等ができる体制を整えている	3.7	3.9
		VII-4	卒業生の活動状況を把握し、教育理念・教育目的、教育目標、授業の展開に活用している	3.5	3.9
				3.7	4

VIII 地域社会・国際交流

	下位項目	点検 (評価内容)		令和4年度 自己評価	令和5年度 学校関係者 評価 (平均)
1	地域社会と交流するための体制 1) 地域社会への貢献とニーズの把握 2) 地域社会における資源の活用	VIII-1	社会との連携に向けて地域のニーズを把握し、看護教育活動を通して地域社会への貢献を組織的に行っている	3.9	4
		VIII-2	本学校の教育活動について、地域社会のニーズを把握する手段、本学校から地域社会へ情報を発信する手段を持っている	4	4
		VIII-3	地域の特徴を把握し、地域内における諸資源を本学校の学習・教育活動に取り入れている	4.1	4
2	国際交流のための体制 1) 学生・教員の国際的視野を広げるためのシステム 2) 留学生の受け入れ等に関する対応	VIII-4	国際的な視野を広げるための授業科目を設定している	3.8	3.8
		VIII-5	国際的な視野を広げるための自己学習に適した環境が整っている	3.2	3.5
		VIII-6	留学や海外において看護職に就くこと等を希望する学生に対応できる体制がある	3	3.3
				3.7	3.8

IX 研究

	下位項目	点検 (評価内容)		令和4年度 自己評価	令和5年度 学校関係者 評価 (平均)
1	教員の研究的姿勢の涵養	IX-1	研究に価値をおき、研究活動を教員相互で支援しあう文化的素地がある	3.3	3.6
2	教育の研究活動の保障と評価	IX-2	教員の研究活動を保障(時間的・財政的・環境的)している	3.2	3.5
	1)研究活動の保障 2)研究活動の評価	IX-3	教員の研究活動を助言・検討する体制が整っている	3.3	3.6
				3.3	3.6

評価領域ごとの学校関係者意見

I 教育理念・教育目的	<ul style="list-style-type: none"> ・新カリキュラムへの見直しが行われ教育理念、目的と関連づけられている。 ・教育理念、教育目的が明確であり、これに従って全体が整えられている。 ・5 学習・教育観と学生観 「評定平均 3.7 昨年から下がった」に関してまず開校以来から変わらない教育理念・目的が維持され、学校全体としては定員を満たし多くの看護師を育成でき、地域へ貢献していることは、前提としてしっかりと評価されなければならない。 <p>その上で、自己評価の評定平均が低いことは、1 一時的な現象・一過性のものではないか 2 当初設定の理念や学習・教育観・学生観を超える事象がおきていか。3 評価する教育の経験年数、役割の違いなどによるものではないかなどを分析し、吟味してみる必要がありはしないだろうか。いずれにせよ「周知の不足」だけでなさそうに思う。</p> <p>➡3 のご指摘については、個々の状況が特定されないように評価結果を出していないので、年数、役割などでの評価分けすることが出来ない状況です。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまで以上の高い看護実践能力が求められる看護人材の育成を踏まえた新カリキュラム編成の周知は、卒業時の到達度にも強く
-------------	--

	<p>関係するところと考えられますので、次年度、I-5の評価平均が上がっていることを期待します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育理念及び教育目的は非常に明確である。 コロナに代表される感染症など医療の強化が必要な時代にあつて、医療に携わる人材づくりのためしっかりとした理念による教育が実践されている。
<p>II 教育目標</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・実現可能な目標設定になっている ・教育目標に従って教育が行われ学生の育成がなされている。 ・カリキュラムの編成に準じて実践可能な行動レベルに整理されている様子がうかがわれる。高く評価したい。 ・教育理念、目的、目標は一貫している。到達度の見極めについては、現場に出てからの評価もフィードバックさせながら、より高い目標を設定し、現代の医療に必要な技術や知識を習得出来るようにすることが大切である。
<p>III 教育課程経営</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学生の明るさから教育環境が良いことが感じられる。退学者が少ないことも教育環境が整備されていることが評価できる。 専任教員の準備性の自己評価が低いと効率性、業務改善につなげ教員のモチベーションをあげてほしい。 ・教育は教育と学生の協働のもとに実施されている。 コロナ感染、学生気質変化など予想外への対応に弱さがあった。今後の社会の要求や想定外のことに対する変化と対応力が得られるように、柔軟な運営体制が求められる。 ・1. 教育課程経営者の活動、III-2 教職員全体は、教育理念・教育目的の達成に向けて一貫した活動を行っている。評定平均 3.8 昨年より下がったに関して、後段とあわせ「コロナ禍の下での教育」は一貫性よりも即応性が求められ、悩みながら探り探り例外事情の続発に対応してきたことを想像すると、そんな中でさえ教員全体が「理念」「教育目的の達成」を意識し反省したことはむしろ高く評価されるべきと考える。 6 教育の教育・研究活動の充実 III-19「教員が授業準備のための時間を取れる体制を整えている 評定平均 2.8 昨年より下がった」に関して妥当な評価である。しかし事由を考えると「昨年より下がった」ことが問題ではなく、ここをなんとか乗り切って改善していくことこそ問題にしないといけないと思う。 「授業の準備が整えられない」のは、やはりコロナ禍の影響の要

素が大きいのであろうが、これは一過性のものではなく、これからも幾分か長く続くのではないか。その意味では「自己評価」の文中にあるように「一気に解決することは容易ではなく」、計画的に進めていくことが必要であるとともに、Covid-19の影響下にあるのは本校だけではないとことを考えると、1 他校での動向・対策の調査、2 実習施設などの意向把握などをベースにして、本校としての対応を考える必要がある。

また教員組織または教員個人としても、どうやって「時間が取れる体制が整えられていない」中で「やってこれたのか」そのかけには何があったのかを綿密に調査する必要がある。「残業したのか」「休み時間にやったのか」「家に持ち帰ってやったのか。」など。結果を出したのだから、その努力は評価されなければならないし、間違っても責められてはならないが、評定平均が2.8ということは「そう思わない」教員が半分以上ということの意味するのだから、その時教員たちが何を考えどう対処してきたかを調べることは「解決」のスタートとして大事である。また一方で、やるかやらないかは別として、学生たちの授業評価も興味のあるところである。

授業準備の負担軽減の対応策

1. 専任教員のしなければならないことを整理する。
2. 例えばシラバスの引継ぎ・共有
3. 前年のスライド等の評価と選択
4. 市販の教材・画像や電子テキストの有効活用

・同じ職員の数で多岐にわたる業務をこなし、さらにコロナ禍での様々な対応が必要となった影響は大きく大変だったと思います。次年度、教員のための時間が少しでも確保できるよう、あらためて習慣的業務を皆さんで見直してみるなどご検討下さい。

・看護学をしっかり学べる教育課程となっている。

教育課程の編成については、基本部分は維持しつつ時代とともに変化する医療現場に対応できる人材を育てるための教育内容を常に目指していく必要がある。

特に、現場に出てから教育内容と現場にギャップがあると戸惑うことも多くなり、ミスやインシデントの原因にもなることから、新しい医療にも対応できる知識や技術を学べる環境づくりをさらに一層推し進めていただきたい。

その意味で本校は日鋼記念病院という立派な実習現場に恵まれ、さらには、ホスピスなど他校では経験できないような環境を有し

	<p>ていることから。これらの資源を十分生かせるよう教員と病院側とが一体となって取り組むことが、大切である。</p>
<p>IV 教授・学習（講義・演習・実習）・評価過程</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ covid-19 の影響は多大であったが授業の工夫をされ教育を行ったことは評価できる。 ・ この各項目は、当事者としての教員・学生でしかわからないことがあるので、教員自身の評定平均が高いことは喜ばしく、妥当な評価と考える。また、自己評価の文中で、 covid-19 の影響により急な実習方法の変更により、協力体制を整えていくための調整に苦慮した」とあるが、今回の感染症の蔓延は歴史上きわめて稀なことであって、それを「苦慮」としながらも、教員たちの努力と実習施設・関係者の協力によって、教授・学習過程を破綻させずにのりきったことは、当初目標を上回る達成であったろうと考える。 <p>この貴重な結果について、これまで3年間の教育・実習に関する経験を今後の発展に役立てられることを強く期待したい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 授業計画及び評価は適正に行われている。 <p>学生の理解度を高めるには、その学習内容や技術習得が現場においていかに大切であるかを学生が実感できること、そのためにも、わかりやすい授業、モチベーションの上がる授業、形式的にならない授業の実現に努めていただきたい。</p>
<p>V 経営・管理過程</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 施設整備に関しては、近年の熱中症に備えた対策を急務と考える。 ・ 地域における本校への認識と本院に対する認識が関係することから、協働して社会にアピールしてもらいたい。 ・ すでに学校から地域への情報提供においてさまざまな工夫がなされ成果をあげられている点は大変心強い。 <p>今後も引き続き病院との連携のもとで、web の利用、FM びゅーなど地元の情報機関の活用、学校訪問では中学から高校まで幅広く学校紹介をするなど積極的な情報発信・広報を継続し、オープンスクールの実施などにもトライして、地域の理解、支援と協力を確保されることを期待したい。</p> <p>他の項目においても、個々に課題はありながらも十分認識されていて、対策も検討されはじめようとしている。</p> <p>評定平均の点数は、個別でも全体にも高いが、評価として適当なものと思う。</p> <p>また、現状では中途退学者は少なく、在籍者数・卒業者数・国家</p>

	<p>試験合格者数の確保に繋がっていることは大いに評価したいと思う。</p> <p>といっても、ゼロではない以上、退学を押し留める努力と、中途退学者の退学に至る経緯・理由・相談の課程・その後の動向などの記録と分析が必要と考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・道の監査の中で教員と学生とのコミュニケーションが良好であるとの高い評価を得たことは日頃の努力の賜物である。 <p>現代社会では学生の都会志向が強く、地方の学校は不利な状況にあるが、それ故に、教育内容や教育課程の整備・充実が学生の確保にもつながっていくことから、教員と学生の良好な関係性の維持・向上をはじめ、快適に学べる環境づくりにも鋭意努めていただきたい。</p>
VI 入学	<ul style="list-style-type: none"> ・広報活動を一層頑張ってもらいたい。 ・周囲の看護学校が募集を停止や入学者減少に苦しむ中であって、本校の高い入学率は大いに評価できる。今後 YouTubeなどを活用して広範囲に PR に努めていただきたい。
VII 卒業・就業・進学	<ul style="list-style-type: none"> ・卒業生との情報共有ができる場を今後期待したい。 ・卒業生からのフィードバックと在校生、保護者、社会に伝える工夫をしてもらいたい。 ・自己評価の文中の「卒業生の6～7割が日鋼記念病院に就職」は、本校のひとつの達成である。だから1の評価平均は4よりもっと高くてもよいと思う。一連の「卒業生の卒後の状況」に関する評価は3点台となっているが、例えば臨床実習のときなどに出会う機会もあるだろうし、本人たちだけでなく卒業生の上司や先輩など情報のルートは様々ある。 <p>自己評価にもある就職先看護部との連携とともに同窓会への協力要請であろう。同窓生の多さとパフォーマンスは本校の貴重な財産である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習の場であり先輩が多くいる日鋼記念病院が連携先であることは、本校の強みであり、今後さらなる連携強化を図りながら、卒業後の様々な情報なども積極的に授業に活かしていくべきである。
VIII 地域社会・国際交流	<ul style="list-style-type: none"> ・covid-19の感染状況で交流が難しかったのか、それとも元々国際的視野がないのか少し不明である。

	<ul style="list-style-type: none"> ・ 社会との接点づくりに工夫してもらいたい。 ・ 1 地域社会と交流するための体制については、もっと評定平均の点数が高くてもいいと思う。 ・ 2 国際交流は、この評価項目自体の意義がいまいだと感じる。この国際交流の意味が <ol style="list-style-type: none"> 1. 卒業生が外国にでていくことか 2. 多様な外国からの留学生を受け入れることか 3. 学校が外国からの留学生をうけいれることか。 4. 学校全体として広くいろいろな国の看護文化・看護教育に視野・理解を広げることが分かり難い。 ・ 卒業生が JICA の海外協力隊員として海外に派遣される報道があったが、本校の国際教育が、活かされたものとして評価できる。今後、こういう人材から帰国後に話を聞く機会をつくり、海外の医療事情などを知ること大切である。 ➡卒業生の JICA 帰国後の報告会は実現したい。
IX 研究	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学生の評価、到達度の関連研究する仕組みをつくと良い。 ・ 教育に多くの時間が使われており、少ない時間でも研究ができる支援体制が必要である。 ・ 自己評価の全教員が取り組めるような支援を検討としてのアイデアとしては、1. 研究課題・テーマを全員共通 1 つとする。テーマは授業研究ないし授業に密接関連するものとする。授業設計から始まる一連の授業準備そのものを研究対象にすることによって、授業の相互評価によって授業の質の向上も期待できる。 ・ 2. 国際交流との関連では、教員全員で一つの古典的なテキストを英文の原文で読む。Florence Nightingale の Notes On Nursing が念頭にある。これならどの看護者と交流する時も共通のベースにでき、古い英語が看護の歴史のはじめを読んでおくことは、読む人たちにとって長い利益がもたらされる。 ・ 4. 看護の各種専門領域の研究に関して、日鋼記念病院看護部と教育委員会と連絡を依頼、あるいは臨床実習指導者との共同研究をさせてもらう。 ・ 教員の質を向上させるため働きやすく研究にも必要な時間を確保出来るような環境づくりに引き続き努めていきたい。

学校関係者評価 総評

第5回の関係者評価委員会を開催できたことに感謝申し上げます。

評価結果の得点について、Ⅰ～Ⅸの項目全ての平均得点が学校側の自己評価得点よりも関係者評価委員の評価得点が上回っていたが、Ⅲ. 教育課程経営の項目においてⅢ-13「単位認定の基準は看護師に必要な学修を認めるものとして妥当である」、Ⅲ-14「単位認定方法は看護師に必要な学修を認めるものとして妥当である」が関係者評価委員の評価得点の方が下回っており、このことは単位認定の考え方や評価体系などの整備が不十分であり、教育課程評価の体系を早急に整備する必要がある。また、Ⅷ. 地域社会・国際交流の項目において、Ⅷ-3「地域の特徴を把握し、地域内における諸資源を本学校の学習・教育活動に取り入れている」が関係者評価委員の評価得点の方が下回っており、地域社会における資源の活用が不十分であり課題である。そのため、地域社会における資源の活用の検討や地域社会のニーズを把握する手段や地域社会への情報を発信する手段を工夫・強化し、地域社会と交流するための体制を整えていく必要がある。

当校では令和5年度に創立35周年記念事業として、制定した校歌を披露すると共に記念講演や卒業生を招きシンポジウムを開催した。その中で学生が看護の魅力や自身のキャリアを考える機会ともなった。それらの取り組みをはじめ、真摯に取り組んでいる教育活動を地域にわかりやすく発信することが課題となっているとのご指摘をいただき、これまでもPR方法については様々なご助言をいただいていたが、まだまだ、「学校の魅力」「看護の面白さ」を対象の状況に応じた発信ができておらず、特に次年度に向けてYouTube等の活用により若い世代が身近に捉えられるような動画によるアピールなど工夫し発信していきたい。

また、毎年の課題となっている教員の授業準備時間の不足についての指摘があり、教員の業務に関する見直しをすることで教育の質を確保し業務の効率性を高められるよう検討し計画的に進めていく必要がある。さらに、在籍している学生たちはコロナ禍により行動制限やマスク着用など他者との関わりに苦慮し、また悩み事など相談できずに抱え込んでいる状況もあり、それらの支援として第3者によるカウンセリングや相談窓口を効果的に活用できるよう運用方法の充実を目指し調整を進めていきたい。

このたびの貴重なご意見を活かし、より良い学校運営を目指し、教職員一丸となり努力していききたいと思います。